

動労千葉を支援する会 ニュース

2025.1.20
401

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DCC会館

〒047-0820

メールアドレス info@doro-shien.site

〒口座番号 0015013192036



動労千葉は1月11日、DCC会館で動労千葉団結旗開きを開催した。組合員・家族会・OB会、共闘関係の仲間約100名が結集した。特に1月1日付で、動労千葉に結集した幕張支部の新組合員の紹介とあいさつに会場は大いに沸いた。

幕張支部（清掃）でS君が動労千葉に加入

「労働環境守るために団結して

頑張っていきたい」

1月1日付でCTS幕張事業所（クリーン）で働いているS君が動労千葉に加入してくれました！さつそく、11日の動労千葉旗開きに参加し、組合員・支援の仲間に加人のあいさつを行い、大きな拍手と歓声で迎えられた。

が大変だなということがある中で、声をかけていただき加入することになりました。労働環境を守るために団結して頑張っていきたいと思えます。それと、少しでも賃金上がるように頑張っていけます。よろしくお願ひします。

【S君のあいさつ】

この度、動労千葉に加入することになりましたSと言います。

今年1月から、CTS幕張事業所で手当のある夜勤が減らされるということがあり、なかな

今回の加入は、JR東日本がグループ会社に矛盾をシワ寄せする中で強制されている問答無用のコスト削減、賃金抑制、要員削減、夜勤削減などに対して、現場に渦巻く怒りの強さを示している。旗開きで関委員長が呼びかけた「25年組織拡大・反戦春闘」の突破口を開く大きな勝利だ。

新春インタビュー 関道利委員長に聞く 「もう一段の飛躍と、組織拡大へ闘おう」

(日刊勤労千葉9510号より)

新年にあたってお話を伺います。昨年の闘いはいかがだったでしょうか？

11月集会には各支部組合員、シニア組合員、OB会、家族会の皆さんが結集していただきました。全国の仲間の中で3千人の結集をかち取りました。6千人を目標として闘ってきましたが、6千人を指すだけの運動ができたということは重要ではないかと思えます。昨年は5月沖縄闘争、8・6ヒロシマの闘い、9・1練馬駐屯地闘争、10



・フェイスラエル大使館闘争など、実力で闘う中で大きな自信を持って闘いに臨んできました。その中で学生をはじめ多くの新たな仲間が結集してくれたことは、

大きな成果だと考えています。「次」につながる11月集会、昨年の闘いだったと考えています。

私たちは昨年、「6000結集」を本気で目指そうと決断しました。それは、ウクライナやガザをはじめ世界戦争が現実化していく情勢であり、何よりも日本政府が自ら戦争に向かい、労働者の権利や労働条件を徹底的に破壊しようという攻撃とする中で、私たちが絶対に力を持たなければいけないという思いからでした。

昨年はまさに激動の年でした。トランプ再選や欧州での政権崩壊、日本の衆院選と石破政権誕生、何より韓国・ユンソンニョル政権が非常戒厳を強行し、これをわずか6時間で打ち破った韓国労働者階級の闘いです。この闘いの先頭に民主労総の仲間がたつています。「従北反国家勢力を一挙に撲滅する」と宣言されたこの攻撃の核心は、民主労総解体です。日米韓の軍事同盟



が、まさに「対中国への侵略戦争同盟」として動き出そうという中で、闘う労働運動を何としても解体しなければならぬという攻撃でした。しかし、韓国労働者階級はこれを粉碎して、歴史的な闘

いを開始しています。

私たちはこの民主労総との連帯を03年以来築いてきたわけです。それも幹部同士の形式的なものではなく、実際の闘いの連帯を含めたかけがえのない連帯を築いてきました。そうやって連帯してきた仲間が、この非常戒厳との闘いの先頭にたつています。私は昨年も訪韓しましたが、民主労総ソウル本部が新たに移転した事務所にも、中野元委員長の写真が飾ってあるんです。改めて感動しますし、この連帯は伊達じゃないという思いを新たにしました。こうした連帯があるからこそ、「労働者の国際連帯で戦争を止められる」「戦争を止め、社会を変える力がここにあり」という訴えにも力が宿ると思えます。だからこそ、民主労総の闘いは私た

ちに「何をなすべきか」を問うています。私たちは一昨年来、この時代に質、量ともにこれまでとは違う反戦闘争を作り上げようという決意で闘いに立ち上がってきました。また、昨年は11月集會に結集する仲間が40波近いストを職場から組織して、集會にのぼりつめました。ここから、もう一段飛躍して、階級的労働運動を甦らせていく挑戦に全国の仲間とともにうってでたいと思います。

国鉄1047名解雇撤回を巡っても決戦を迎えています。

やはりJRが国鉄分割・民営化から発足したというところに、こうした攻撃を推進する位置にいる理由もあると思います。

国鉄分割・民営化は、戦後最大の労働解体攻撃であり、闘う労働組合を解体することで改憲・戦争国家化を実現しようという攻撃でした。中曽根が「国労を潰して、総評・社会党を解体する」「お座敷をきれいにして立派な憲法を安置する」と語った通りです。

分割・民営化―総評解散によって結成された連合は今、労働者の権利を守

るところか43兆円の大軍拡を事実上容認して後押ししています。結局、連合が組織している大企業、軍需企業、原発企業の側の利益を代表しているわけです。排外主義と愛国主義で、労働者を戦争に動員していく産業報国会への道を進んでいます。

しかしもう一方で、「改憲」のために分割・民営化までやった中曽根は100歳まで生きても改憲を見ることはできませんでした。安倍も岸田も実現できませんでした。私たちが全国の仲間とともに1047名解雇撤回を貫き、国鉄闘争を守りぬいてきたことは、改憲を阻止する決定的な力です。極右・石破政権が登場する中で、この闘いはまさに「今現在の攻防点」です。東京地裁は11月13日の判決日、異常な警備体制を敷いたことも、このことを表しています。



裁判所は「時効」の一点でJR・国を擁護し、この時代に改めて国鉄分割・民営化と国家的不当労働行為、戦後最大の労働解

体攻撃を正当化しようとしています。しかし、判決文は「仮に」と前置きはしていますが、「JRが採用義務を負うことがあるとしても」とまで書いています。私たちが38年に及ぶ闘いで暴き出した真実は、裁判所といえども否定しがたいのです。闘いは「勝利まであと一步」。戦争阻止と階級的労働運動の復権をかけて新たに開始した高裁署名に全力で取り組み、1047名解雇撤回・JR復帰へ大きな闘いの前進をかちとる1年にしたいと思います。

3月ダイ改・25春闘に向けてはいかがでしょうか？

3月ダイ改では、鴨川派出の廃止提案は改めて許すことができません。会社は外注化を「雇用の場の確保」といつて進めてきました。それを、鴨川駅での入換を2人体制から運転士1人でやらせて、派出は廃止するなど許せません。2人体制で入換を行っていたのは、踏切を止める時間を長くしないためです。それを時間がかかっても1人で良いというのは、廃線化と同じく地域切り捨ての問題でもあります。

また、特急の車掌1人化、首都圏主

要路線・長編成でのワンマン拡大など車掌激減の攻撃も開始される重大なダイ改でもあります。

どちらか鉄道を徹底して軽視し、安全を切り捨てる攻撃です。職名廃止、融合化・統括センター化で「鉄道を持つIT企業」になるとして、鉄道業務を徹底して軽視していることの表れです。鉄道で働く労働者の誇りにかけて許すわけにはいきません。

また、久留里線廃線化との闘いも勝負の年になります。JRは廃線方針を打ち出し、君津市もJRともに「廃線前提」で進んでいます。

これは単に久留里線の当該区間を廃線化するというものではなく、内房線・外房線の廃線化につながる攻撃です。

また、全国の廃線化の突破口にも位置づけられていきます。それは国力のすべてを戦争に集中させるといふ国家改造攻撃です。これに対して、久留里線と地域を守る会など地域の仲間とともに廃線化を断固粉碎する闘



いに立ち上がっていききたいと思えます。

25春闘は激しい物価高の中で大幅賃上げを獲得する闘いであり、激しい競争情勢の中での闘いにもなります。こういう中での労働組合としての闘いを展開していきたくと思います。先ごろ自民党の小野寺が「なぜ学生が1003万円まで働かなければならないのか」と発信して炎上しました。労働者の4分の1を非正規に突き落とし、権利と雇用を破壊し、学費をここまで上げて、生活を破壊してきたのは一体誰なのか。「失われた30年」を作ったのは誰なのか。自民党と大資本たちが「主犯」です。こういう連中に怒りを叩きつけ、闘いに立ち上がっていくことだと思えます。

JRはグループ会社にコスト削減をゴリゴリやらせ、超低賃金を強制して、自分たちが巨額の利益を稼ぐということをやっています。こんな構造をぶっ飛ばす、JRグループ会社を貫く闘いが必要です。

そして、何より組織拡大決戦としてかちとりたい。昨年は動労総連合に、東京で支部を結成した環境アクセスから、高崎では高崎鉄道サーブスから新たな仲間が結集してくれています。今

年1月1日、1年のスタートにCTS幕張事業所で新たな仲間が結集してくれました。今年を本格的な組織拡大に向けた年とする出発で、本当に重要な前進をかちとることができました。

JR本体でも、例えば北海道で若年退職が19年からすでに1千人を超え、四国では運転士不足でダイヤを維持できないほどになっています。東日本でも若年退職が急増しています。現時点では怒りが「退職」という形で表れています。真剣に闘いに立ち上がるなら、組織拡大を実現できる情勢です。この1年をかけてJRグループ会社を貫く本格的な組織拡大を実現する、その出発として25春闘を「組織拡大」を掲げて闘い抜きたいと思えます。

戦後80年ということでは政治的な決戦の年でもあります。

「戦後80年」というのは「昭和100年」でもあるそうです。「戦後」といいつつ、戦前・戦中の時代が継続してきている。同時に今の情勢は単純に「継続」ではなく、米日の側から「対中国」で戦争に突き進んでいます。この戦争を絶対に阻止するという場合、日米安

保の最大の実体であり、急速な軍事拠点化が進められる中での沖縄闘争は本当に重要です。また、8・6ヒロシマは「被爆80年」の中での闘いであり、改めて決戦的な闘いです。

労働組合は本来、反戦の砦であり、戦争を阻止する闘いは労働運動の本質的な課題です。「台湾有事」を掲げて戦争に突き進む石破政権を打倒しなければなりません。さらなる組合員の決起、闘う仲間の拡大を実現していきましょう。

また、「こうした戦争情勢だからこそ、労働組合に対する弾圧も激化しています。とりわけ関生支部への大弾圧と港合同つぶしの攻撃を、全労働者の未来のかかった闘いとして絶対に粉碎することを訴えます。2月26日には関生支



部・湯川委員長に対する反動判決が狙われています。断固粉碎に向けて、ともに闘いに立ち上がりま

この間、シニア組合員制度を確立してきました。

一つは、動労千葉が培ってきたかけがえのない団結を、次の世代にも引き継ぎたいという思いからです。中途退職の激増ということも、闘う労働組合の団結があれば、こんな風にはなりません。そういう意味でも社友会ではなく、労働組合に団結して闘うことが重要です。そういう団結があるから、動労千葉は組合員がシニア組合員としても闘ってくれているわけです。

私たちには動労千葉として闘ってきた誇りがあります。そして、今のJRの状況や春闘をはじめ社会の状況を見ても、動労千葉が果たすべき役割はまだまだ大きなものがあります。反戦闘争の爆発を勝ち取るという点でも、さらなる国際連帯闘争の発展ということでも、シニア組合員の決起は大きな力です。

こうした闘いに立ち上がると同時に、何より本格的な組織拡大の実現へ全力で打って出るための方針でもあります。シニア組合員制度確立と、多くの組合員のシニア組合員への決起の中で、そ

の土台は作られています。

JRの現状を見れば、考えられないような事故の多発です。「これからは価値創造だ」「社員の意識を創造的な仕事へ」など、鉄道を根本からないがしろにすれば、安全が崩壊するのは当然です。首都圏路線のワンマン化では、今回常磐緩行2両という長編成に拡大し、その後の対象には総武緩行線も含まれています。車掌の仲間はどう扱われるのか。運転士にとっては重大な労働強化です。こんなことを進めていけば、さらに重大事故につながります。

やはり会社の攻撃に対する最大の反撃は、動労千葉の組織拡大です。「これでいいのか」という思いは、多くの仲間が持っていると思います。その怒りを本当に結集し、本格的な組織拡大を実現しましょう。すべての組合員の総決起をお願いしたいと思います。

国鉄1047名解雇撤回！

控訴審・東京高裁勝利判決へ

2・9 国鉄集会

2月9日(日) 午後2時から

(開場1時15分)

江戸川区総合文化センター小ホール

12・27 久留里線と地域を守る会

「久留里線一部廃線」方針に

君津市にも抗議の申し入れ

千葉支社は久留里線・久留里～上総亀山間の廃線方針を発表しました。これをうけて昨年12月27日、久留里線と地域を守る会が君津市への申し入れを行った。

申入書には、廃線化への強い抗議の



意思、住民アンケートに踏まえた存続への切実な思いが表れている。

会社は地域住民の声を顧みず、「廃線ありき」で切り捨てようとしている。業務融合化やジョブローテーション等を進め、現場をないがしろにする姿と同じだ。地域の仲間とともに、廃線化反対の声をあげよう。

申し入れ概要

JR久留里線（久留里～上総亀山間）沿線地域交通検討会議の「報告書」並びにJR東日本千葉支社のJR久留里線久留里～上総亀山駅間の廃線方針に強く抗議する。

JR東日本千葉支社は11月27日記者会見において、「JR久留里線の久留里～上総亀山駅間で列車の運行を取りやめ、バスなどを中心とした新たな交通体系に移行する方針」を表明した。土

沢壇支社長は「利用者や地域の役に立っているかを考えた場合に、新たな交通体系へのモードチェンジを図ることが最適と判断した」と説明した。また、驚くべきことにこの方針を11月25日に君津市長に伝えたとのことであった。

私たちは、これまで様々な機会に「JR久留里線（久留里～上総亀山間）沿線地域交通検討会議」の調査や運営方針を分析・検討し、各方面に改善の申し入れや要求を行ってまいりました。また、地域住民の皆様の要望を届けるための署名運動も行い、それらの願いを緊急の申し入れとして行ってきた。

そのような中で、今回の報告書の内容、そしてJR東日本千葉支社のJR久留里線の久留里～上総亀山間で列車の運行を取りやめる方針は、私たちの活動だけでなく地域住民の願い、さらには今後の君津市のまちづくりをないがしろにする到底受け入れられる内容でない。

私たちは上記のように都度要望や申し入れ等を行ってきましたが、今回の「報告書」の内容、及び「列車の運行を取りやめる方針」に対して、下記の通り具体的にその内容と理由を指摘し改めて厳重に抗議するものです。

